

日本舞踊 花ノ本流

花ノ本流雛の会 花ノ本 鶴静

花ノ本流とは、十六世宗家・二代目花ノ本寿師を中心とする日本舞踊流派のひとつです。

花ノ本という名跡の歴史は大変古く室町時代の連歌師「飯尾宗祇」師が受けた称号です。以後、連歌・俳諧師に引き継がれる名跡でしたが、

十四世翠師は長野県松本市の日本舞踊家の花柳太衛蔵師ととも親交が厚く、東京で日本舞踊花ノ本流を創立することを発案しました。昭和30年、花柳太衛蔵師は、十四世翠師の長女とともに上京。一方、広島県三次市で生まれた初代花ノ本寿師（十五世宗家）は、地元で幼少より日本舞踊の稽古を続けた後、上京。花柳太衛蔵師の元へ入門しました。そして翌年、花ノ本流第一回名取式が行われ、事実上、日本舞踊花ノ本流の創立、その折、17歳の寿師は、十四世翠師と太衛蔵師の薦

めにより日本舞踊花ノ本流の十五世を許されました。そして、太衛蔵師は、花ノ本葵という名で日本舞踊花ノ本流の流祖となりました。

徳島県支部は、昭和53年、十五世花ノ本寿師を花ノ本寿鶴師が徳島にお呼びし、「徳島会」を結成しました。稽古は、とても緊張感のある空気を共有する時がありますが、ここに宗家と寿鶴師の舞踊に対する熱い想いを感じることができ、心が引き締まる充実感を得ることができ

ます。阿南の稽古場には、花ノ本寿鶴師のもと、古典舞踊・地唄舞・新舞踊など、いろいろな稽古を行っています。

その成果を通して、各種施設の訪問などに役立てています。施設に慰問に行った時に、知り合いや、昔一緒に稽古していた人たちに会った時に、懐かしいうれいと言って涙を流してくれたり、踊りの好きな人は、「すごく良かった」とか「こんな長い踊りを覚えるのはすごいね」と言っていて、私の手をさすりながら喜んでくれた時は、来て良かった引き

した。

最近では、新型コロナウイルス感染症流行のため、阿南市文化祭が中止になった折は、稽古もできず、口惜しい思いをしましたが、現在は、秋に行う第51回阿南市文化祭に参加するために、皆一同稽古に励んでいます。

音に合わせて体を動かすことは、脳を刺激して、運動とともにストレス解消になり、また稽古の間には、お茶やお菓子をいただき、お喋りしながらの談笑などは、心と体も「さわやか」な気分にしてくれ、私たちは幸せに思っています。

今後の活動としては、花ノ本流雛の会一同が協力し、一人ひとりが日本舞踊の奥深さをさらに探究しつつ、伝統芸能の良さを伝承していくことに力を注ぎたいと考え

